
いろはにほへど、こいならず

能美夜澄

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

いろはにほへど、こいならず

【Nコード】

N3846Z

【作者名】

能美夜澄

【あらすじ】

愛するモノと繋がった時、人は真なる力を発揮する
友情と青春の熱血学園フェティシズムバトル！
の予定

碧清学園特務部によるこそ（前書き）

作者は日本語が不自由でタイピングが遅いです。生暖かい目で見守ってください。

基本妄想の垂れ流しですから、詳しくは脳内補完をお願いします。

碧清学園特務部によるこそ

『個性』という言葉は酷く都合がいい。

世間一般においてどんなに受け入れがたい性格も、性質も、性癖も、『個性』なんて言葉1つでまかり通ってしまうのだから。

世話好き、意地っ張り。謙虚でも豪快でも。活動的でも退廃的でも大いにけっこう。歳上好きであろうが人ではなく衣服、制服や装飾品に劣情を抱こうが別にいい。

度を越してさえないければ。

現代に於いては、アクが少ない、平均的な人間が多数を占めているからこそ、私に耐性ができていないのかもしれない。

我が国の教育が天才を生み出すための専門化されたものではなく、平均的な秀才を生み出すためのモノなのだ。

その中であっても薄まらない『毒』を持った存在に抵抗を覚えるのも、私に限ったことではないだろう。

断じて私は短気などではない。そこばかりは始めに主張しておかねばなるまい。

未だに学徒の身に在っては、人間できてないこともあるやもしれぬ。だが人並み以上の忍耐力を培ってきたつもりである。

長々と前の口上を述べさせてもらったが、私が謂いたいのはつまり

「いろはッ、頼む！ 今日もお前のムレタ靴下を嗅がせてくれ！」

私の幼なじみは救いようのない変態である、ということだ
そんなことをのたまいながら、不肖の幼馴染みが神聖なる碧清学園中等部付属図書室に飛び込んでくる。

学年どころか高等部とは校舎が違うはずなのになぜ居る。

「頼むよ。ホラッ、目の前のヒーターのおかげでいい感じになってるし早く靴をぬいデグァ」

コイツが馬鹿なことを言い切る前に後ろからアタマに蹴りが入れられる。いつものことながら大丈夫なのか。そして飛んできた唾をすかさず本でガード。すまない赤川先生。

「いい加減図書室内での大きな奇声を上げながらの奇行は控えてもらえないですか、亜執センパイ」

そうクールに言い放つ黒髪ロングは蔵柿愛架。この図書室の主にして冷血無慈悲な図書委員のオサ。

無類の本好きにして私の同級生。

それに相対するは、我が幼馴染みにして碧清学院高等部に在籍する生きる伝説（変態的な意味で）。

怯むことなく亜執晴二は無意味に澄んだ瞳を輝かせ。

「つまり、図書委員として騒ぎを見過ごせないと」

何故かタメをつくり。

「なら、静かにしてさえいれば」

胸を張り自らになんら恥じることなどないように。

「変態行為をしてもいいんだよな?! さあいろは! オレにその可憐にしてその実ワガママなかほりのおみ足をゲボア」

いい終わる前にセージにエルボーを叩き込む。ワガママなかほりってなんだよ。私は普通の体臭だ。

そして、これ以上騒ぎが大きくならない内に図書室から引きずり出すべくセージの肩に力を籠めて引く、が重い。無駄にデカイ図体をしおって。

「イヤ、いろはが小さいだけだロリヤ!」

そうか、まだ息があったか。もう少し痛めつけねば。

「……これ、へんきやくおねがいます」

蔵柿女史に本の返却を依頼するのも忘れない。喉が乾燥してたから少しヘンになってしまったが。裏返ってなんてないな。

何故か驚いたかのような女史に本を押し付け、セージを引っ張りながら去る私。コイツには帰り道でたっぷりお仕置きをしなければ。

「いろはさんって喋れるのね。同じクラスでも初めて聴いたかも…」

未だに衝撃が抜けないでいる。あんなにクラスでは大人しいいろはさんが、顔を真っ赤にしたり殴ったりするなんて。

「でも、とってもかわいい声。彼女なら、すごく愉しめそうね…」

蔵柿愛架は白かった筈の頬を残るところなく染めあげ、舌なめずりしながら妄想を膨らませる。唇からチロリと覗いた舌は、ゾツとする程に紅かった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3846z/>

いろはにほへど、こいならず

2011年12月13日00時59分発行